

# 水稲オーガニック栽培の安定生産

農業技術振興センター革新支援部

## 【普及活動のねらい・対象】

平成30年度より、水稲有機栽培の減収の主な原因である雑草対策について、機械除草技術の現地実証ほを設置し、収量向上に取り組んでいます。これまで、機械除草、深水管理、米ぬか散布を組み合わせて除草効果を実証できましたが、昨年度は、多年生雑草のオモダカが多発による減収が課題となりました。そこで、今年度は多年生雑草の抑草技術を実証しながら、水稲オーガニック栽培の安定生産に向けた取組を支援しました。

## 【普及活動の内容】

県内3ヵ所（甲賀、東近江、湖北）に設置した実証ほでは、オモダカの塊茎死滅を目的に、前作水稲の収穫後に反転プラウ耕を行い、代かきはP T Oを高回転に設定し、作業速度を低速で実施しました。田植え後は、各実証ほで乗用除草機の実演会を開催しました。また、県内の水稲有機栽培取組農家や栽培希望農家、J A営農指導員や普及指導員等を対象とした、水稲有機栽培技術研修会を開催し、技術のポイントを紹介しました。



写真 乗用除草機の実演会

## 【普及活動の成果】

湖北では、昨年度オモダカが多発し減収しましたが、プラウ耕と代かき方法の改善により、オモダカの発生量を昨年より約40%減らすことができました。収量については、甲賀では苗の生育不良により活着が悪く、機械除草による欠株が8～10%と多くなったため減収となりましたが、東近江と湖北では、430～460 kg/10aと目標を達成することができました。当センターでは、これまでの3年間の実証成果をまとめ、新たに作成した「オーガニック近江米の手引き」を活用し、今後も水稲オーガニック栽培の普及を図ります。

### ◎対象者の意見

オモダカを抑えるため、水稲収穫後すぐにプラウ耕を行い、代かきもオモダカ対策を意識した作業ができ、効果を実感できた。この取組を継続し、少しでもオモダカを抑え、オーガニック栽培に取り組みたい(M農場)。